

週間市場レポート (2022年6月6日~6月10日)

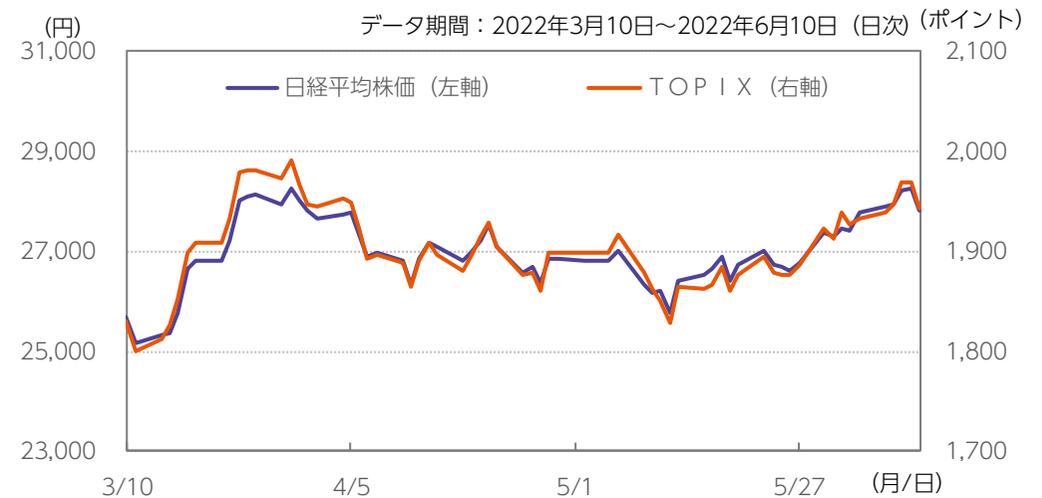
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/6/3	先週末 2022/6/10	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)	🇯🇵	27,761.57	27,824.29	0.23 ↗
TOPIX (東証株価指数)	🇯🇵	1,933.14	1,943.09	0.51 ↗
ダウ工業株30種平均 (ドル)	🇺🇸	32,899.70	31,392.79	▲ 4.58 ↘
S&P500種指数	🇺🇸	4,108.54	3,900.86	▲ 5.05 ↘
ナスダック総合指数	🇺🇸	12,012.73	11,340.02	▲ 5.60 ↘
ユーロ・ストックス50指数	🇪🇺	3,783.66	3,599.20	▲ 4.88 ↘
S&P/ASX300指数	🇦🇺	7,222.00	6,909.74	▲ 4.32 ↘
上海総合指数	🇨🇳	3,195.46	3,284.83	2.80 ↗
MSCI AC アジア (除く日本)*		854.62	864.23	1.12 ↗
東証REIT指数	🇯🇵	2,004.87	2,007.74	0.14 ↗
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数	🇺🇸	838.48	791.09	▲ 5.65 ↘
ASX300 REIT 指数	🇦🇺	1,485.00	1,372.80	▲ 7.56 ↘
グローバルREIT (除く日本)*		196.61	186.27	▲ 5.26 ↘
日本10年国債 (%)	🇯🇵	0.234	0.253	0.019 ↗
米国10年国債 (%)	🇺🇸	2.933	3.156	0.222 ↗
ドイツ10年国債 (%)	🇩🇪	1.273	1.516	0.243 ↗
英国10年国債 (%)	🇬🇧	2.155	2.447	0.292 ↗
ドル/円	🇺🇸	130.88	134.41	2.70 ↗
ユーロ/円	🇪🇺	140.29	141.35	0.76 ↗
英ポンド/円	🇬🇧	163.43	165.56	1.31 ↗
豪ドル/円	🇦🇺	94.31	94.71	0.42 ↗
フィラデルフィア半導体指数		3,062.59	2,831.98	▲ 7.53 ↘
WTI原油先物 (ドル)		118.87	120.67	1.51 ↗
CRB指数		323.27	325.81	0.78 ↗

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で横ばいとなりました。外国為替市場での円安ドル高の進行で、自動車や機械などを中心とした輸出関連企業の採算が改善するとの期待や、今秋にも政府が大規模な経済対策を打ち出すとの期待から週初より上昇し、8日（水）には、3月30日以来およそ2ヵ月ぶりに28,000円台を回復しました。欧州中央銀行（ECB）が6月の定例理事会で、次回会合での利上げを開始を表明し、金融引き締めによる欧州の景気減速懸念から9日の欧米株式市場が下落すると、週末は下落しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース *1 ▲はマイナスを表します。 *2 中国は龍船節で休場のため、6月2日のデータ、英国はプラチナジュビリーで休場のため6月1日のデータを掲載。

≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で上昇しました。米連邦準備制度理事会（FRB）が積極的な金融引き締めを進めるとの見方から米長期金利が上昇した流れを受け、国内金利も上昇しました。一方、日銀は指値オペの実施により金利上昇を抑制する姿勢を示していることから、国内金利の上昇幅は限られました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

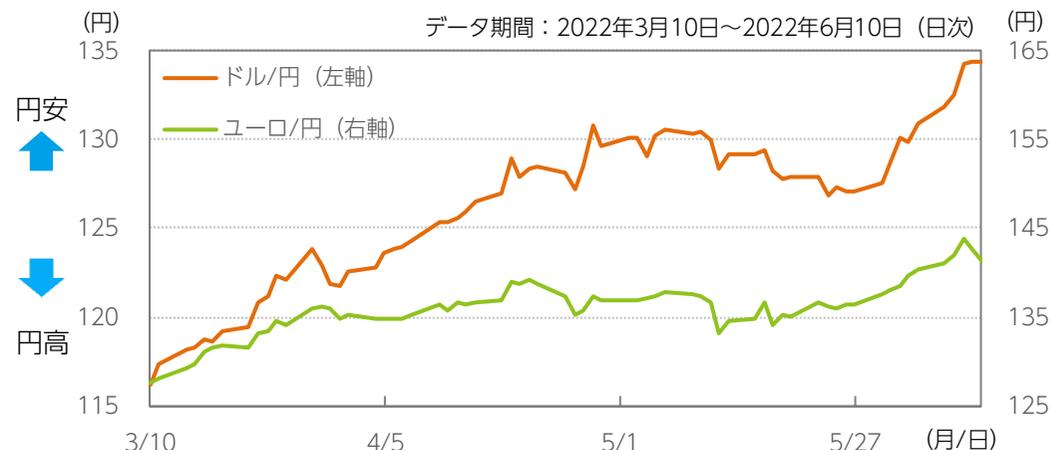
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で大幅下落しました。中国北京市でコロナ関連の行動規制が緩和され、中国経済の回復への期待が高まったことや米長期金利の上昇がやや一服したこと受け、週前半は上昇しました。ECBが7月に量的緩和の終了を決定し、0.25%の利上げに踏み切る方針を示すと、欧州の景気減速懸念から大幅下落しました。週末も、5月の米消費者物価指数（CPI）の伸びが、市場予想を上回り、FRBによる金融引き締めが加速すると見方が広がり下落しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。前週末に公表された5月の米雇用統計が米労働市場の堅調さを示す結果となり、FRBが積極的に金融引き締めを進めるとの見方から、日米金利差の拡大が意識され、円売り米ドル買いが進行しました。一時、2002年2月以来、およそ20年ぶりの円安水準となりました。



5) 今週の見通しについて

欧米の急速な金融引き締めへの思惑から、不安定な相場が続いています。株式市場では、投資家はリスクを取りづらくなっているようです。

10日（金）に発表された5月の米CPIは前年同月比+8.6%となり、1981年12月以来、40年5ヵ月ぶりの大幅な上昇率となりました。引き続き家庭用食品やガソリンなどの生活必需品の上昇幅は大きく、今後も物価の押し上げ要因となることが予想され、当面は伸び率の高い状況が続きそうです。高いインフレが続く場合、FRBはインフレ抑制のため、大幅な利上げを継続する可能性もありそうです。FRBは5月に続き、6月および7月会合でも0.5%の利上げを実施すると見方が大勢を占めており、市場では、9月会合でも0.5%の利上げを織り込みつつあるようです。

株式市場では、欧米金利の動向に左右されやすい展開が続くなか、今週は、日米の金融政策決定会合などの重要イベントを控えています。結果次第では、株式市場は波乱の展開となることも予想されます。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>